

令和3年度栃木県養護教育研究会秋季研修会開催

529名参加（文化センター80名、各地区Zoom449名）

期日 令和3年11月9日（火）

会場 栃木県総合文化センター メインホール

*小中学校の会場は、各地区の拠点校

1 開会

2 会長あいさつ

栃木県養護教育研究会会長

田代 哲郎



3 研究発表

「地域に根ざした健康教育を目指して

～地域関係機関との連携～」



発表者 那須烏山市立南那須中学校

那須烏山市立七合小学校

谷田 了子 先生
佐藤文美恵 先生

4 指導・助言

栃木県教育委員会事務局学校安全課

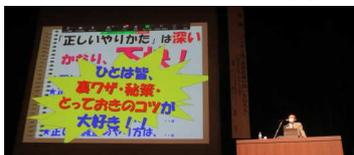
指導主事 渡邊 晶子 先生



5 講演

「ガッテン流で養護教諭の思いを伝える

～行動変容を目指した伝え方の極意～」



講師 元NHK科学・環境番組部専任ディレクター

「ためしてガッテン」出演担当デスク 北折 一 先生

演出家的発想法から、「えっ、なんで！どういうこと！それ聞きたい！」モードをつくりだすための秘策を、現在の教育現場の実態を踏まえた観点からお話を伺った。

◆演出家的発想法のすすめ◆

とっておきの「伝え方上達方法」黄金のレシピ

1 知りたいモードを作る。

- ・情報が伝わるには、受け手の心理状態をよく読む。
- ・共感が決め手。それをうまくコントロールするように校正を熟考し発信する。（伝える△、伝わる◎）
- ・試したくなる、味わいたくなる、味わい続けたいくなる
コツ「人の心の中にある鯛を釣り上げろ！」の精神で。

2 発想を変える。行動変容の極意。

- ・受動態（させられる）から、能動態（自分です）へ。
- ・分かりやすいから、分かりたくなるへ。
- ・説明モードからの脱却。「～ましょう」形式を考え直す。
- ・「ナッジ」行動理論を取り入れる。

3 自分も楽しむ。

- ・伝わるための策を必死に考える。何だろう感&気楽さ感で。いい仲間と！楽しみながら！同僚性も醸成。

4 エンドルフィン効果を狙う。

- ・脳内伝達物質、幸福ホルモンによる子供も先生も、やれば出来る自分との出会い。喜びや満足感が次の行動（行動変容）につながる。



「健康」に関心を持つのは中高年になってから。養護教諭は未来のある子供たちに健康への情報や関心の種をまくような存在。保健の先生があんなこと言ってたな。いい先生だったな。会いたくなってきたな。

養護教諭には、直接的に「生きること」の素晴らしさを教えられる特権がある。健康の情報を伝える養護教諭は、その情報が伝わることにより受け手に幸せになってもらえ、さらに自分も幸せになれる仕事である。

○「伝える」ではなく、「伝わるため」の作戦が大事。
同僚や上司ともうまくやっていけるコツでもある。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大状況から、Web会議サービス「Zoom」を活用し実施しました。地区常任委員さん、地区の拠点校の皆様には大変お世話になりました。

今回の研修会係当番は、高等学校、特別支援学校の先生方に協力していただきました。ありがとうございました。

